

## みなさま よろしくお願いたします



はじめまして。今年の4月から鶴瀬西交流センターに配属となりました新入職員のみなみむら ぽのか  
南村歩佳と申します。

私は3歳から富士見市に住んでおり、夏は地域の祭りやイベントに親しんできました。特に好きなイベントは、「水子貝塚星空シアター」です。日中は火おこしや、まが玉づくりなどの縄文体験を行うことができ、日が暮れるところに野外映画会が始まります。模擬店もあるため、買ったものを食べながら、夜風を感じつつ映画を楽しめることが魅力です。例年9月に開催されているため、夏より少し先ですが、小学生だった私にとって非日常的な体験であり、夏の思い出として今でも強く印象に残っています。



写真提供：水子貝塚資料館

今後、市の職員として夏のイベントを担当する機会があれば、業務として携わりながら夏を楽しんでいきたいと思ひます。まずは一つひとつの業務に精一杯取り組んでいきたいと思ひますので、よろしくお願い申し上げます。（鶴瀬西交流センター 南村）

## 夏の思い出 1960年夏



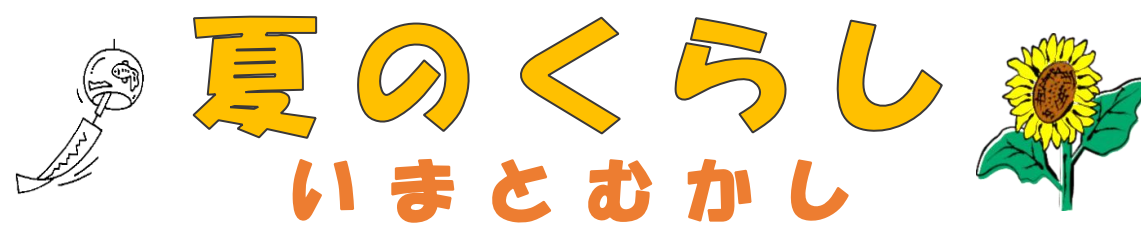
小学生のころ、最も好きな季節は夏でした。何と言っても、夏には夏休みがあります。

当時集団生活での決まり事が苦手だった私にとって、一日を自由に過ごせる長い休みは期間限定オアシスのようでした。午前テレビの児童向け活劇ドラマの再放送を観て、午後は劇中の少年探偵よろしく銀玉鉄砲を持って、城跡の丘や進駐軍の基地方面まで足を延ばしたものです。当時は犯罪や事故が少なかったためか親も放任でした。反面、家族サービスはほぼゼロでした。

花火大会や夏祭りが終わり、母の里に数日泊まると夏休みも終盤。陽が短くなり、ひぐらしが鳴くころ、物悲しい気持ちとともに残った宿題に気が重くなるのが恒例行事でした。いま思えば団塊の世代の夏は、草野球、水鉄砲、昆虫採集などいずれも炎天下の記憶につながっていました。

今や日本は、温帯なのか疑わしくなるほど暑くなりました。いつの日か、風鈴や金魚で涼を求める時代は戻ってくるのでしょうか。

（出井）



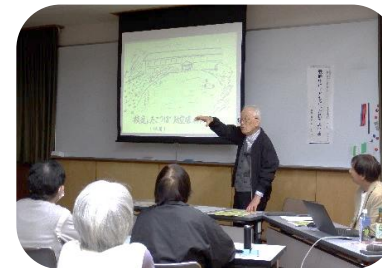
太陽がまぶしい夏がやってきました。街中に子どもたちの声が響き、夕立ちの後のひんやりとした空気、風鈴の音色…。そんな風景はみられなくなったのでしょうか。みなさんはどんな夏をお過ごしですか。

## 平和を考える月に

4月29日、難波田城資料館主催「富士見市に刻まれた戦争」で、萩原弘氏（つるせ西だより編集委員）が子どもころに体験したことを、自分で描いた絵を見せながらお話されました。

陸軍の陣地づくりに参加させられたこと（鶴瀬東地域）。関沢に爆弾が落とされ、死傷者も出たこと。鶴瀬小学校の校庭に、たこつぼのような防空壕を作ったことなど、身近に戦争を感じるお話でした。

8月は6日広島に、9日長崎に原子爆弾が落とされ、15日に終戦を迎えた月です。世界では今でも戦争や紛争で人の命が失われています。もう一度「平和とはなにか」を考える月にしてはいかがでしょうか。



戦争体験を講演  
写真提供：難波田城資料館



## 暑さ対策～行政クーリングシェルターの対応～

市では、危険な暑さから避難できる場所として「クーリングシェルター」を設けています。熱中症特別警戒アラート発表期間中、指定の時間帯に開放されます。（令和8年度開放期間：4月22日～10月21日）

なお、鶴瀬西交流センターは、午前9時～午後5時15分（休館日以外）に開放しています。

また、夏季外出時に休憩できる休憩所「クールオアシスふじみ」の協力施設になっています。

その他の協力施設や詳細については、市ホームページや広報等をご覧ください。



## スイカ三昧



私の母は大のスイカ好きであった。スイカを薬と考えているふしがあり、夏の時期、冷たい板の間にごろりと置かれていた。

ある時、スイカを心おきなく食べようという事になった。母の発案に違いない。（家族も飼い犬までスイカ好きになっていた）それではと一人ひとりが大好きなスイカの半分を抱え、十二分以上に食べた。

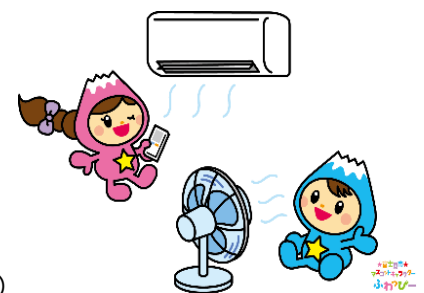
今でも夏になると私は板の間の感触を思い出す。シャリシャリと音を立ててスイカを食べていた黒い犬を思い出す。そして、「これが今年最後のスイカだって」と重いスイカを抱えてきた母をおかしくて笑ったことを思い出す。母が年をとった時、スイカを食べたいと言った。季節は冬だったが、私は日本橋の果物屋に買いに走った。母が信じる薬（スイカ）を求めて。（熊井）

## 夏はふるさとに逃避



生まれ育ったところは、標高1,000メートルの高冷地です。日中は太陽がキラキラ照って熱く日焼けもするのですが、湿度が低いので日陰に入ると涼しいです。今でもクーラーなしで生活しています。扇風機を付けるのも日中2時間くらい。

7月後半から3週間ほどは田舎に逃げず帰ります。7～9月の3か月間くらいは居たいのですが、通院や地域活動、夫との日程調整をすると3週間がやっとなです。でもどうしても耐えられないときは逃げず帰れるところがあると思うだけでも心が休まります。だんだん空き家が目立つ地域になっていますが、大事にしていきたいと思う夏です。（両角）



★夏の一大イベント★  
私が小学生のころ、夏休みに入るとすぐに朝6時半から近くの公民館でラジオ体操が行われていました。首から出席カードを下げて参加し、スタンプがいっぱいになるとノートなどの文房具がもらえたので、毎年皆勤賞を目指して早起きしていた記憶があります。夏の思い出の一番は夏祭りです。近所の空き地にやぐらが組まれ提灯に、屋台がたたくと、太鼓が打ち鳴らされ、屋台がたたくと、子どもにとって夏は一大イベントでした。母に浴衣を着せてもらい、太鼓のドンドンの音が聞こえてくるとわくわくしていました。盆踊りの輪に母と祖母と一緒に加わり二人を真似して踊り、友だちと屋台を回ってゲームやかき氷、金魚すくいなどで楽しみました。最後に打ち上げ花火が上がると、楽しかった夏はもう終わるのだなと寂しい気持ちになったのを覚えています。（あ）がきにかえて 井之川